

神奈川県立 神奈川工業高校

10階建ての近代的な校舎から「横浜みなとみらい」地区に立ち並ぶ高層ビルが見える神奈川県立神奈川工業高



後藤校長

校舎は、1911年（明治44）5月に県内の工業学校として設立した。後藤博史校長は「進学と就職を両輪にしながら自ら学び行動する力を育む」を教育

【DATA】▷校長—後藤博史氏▷所在地—横浜市神奈川区▷学科構成—機械科、建設科、電気科、デザイン科▷生徒総数—1234人▷主要設備—旋盤、フライス盤、マシニングセンター、溶接機、3Dプリンター、測量機など▷主な進路—関電工、東京ガス、JFEエンジニアリング、富士電機、三菱電機、LIXIL、オリンパス、日産自動車、関東学院大学、神奈川大学、神奈川工科大学、東海大学、日本大学、信州大学、東京芸術大学など

育成 モノづくり人材 Vol. 47

「自ら学ぶ」105年の伝統校

方針とし、そのベースとなる理数科学教育に力を入れる。同校は全日制と定時制に分かれ、全日制が機械、建設、電気、デザインなどの4学科、定時制がデザイン科を除く3学科で構成。全日制

方針とし、そのベースとなる理数科学教育に力を入れる。同校は全日制と定時制に分かれ、全日制が機械、建設、電気、デザインなどの4学科、定時制がデザイン科を除く3学科で構成。全日制をしっかりと自分で決める学に進学する。16年度学や職業技術校、企業



高校生ものづくりコンテスト全国大会の木材加工部門に初出場した

部門に建設科3年生の生徒が出場した。制限時間内に木造の屋根部分を製作する競技で惜しくも上位入賞は逃したが、初の全国大会出場という快挙だけに「近年にない結果を出してくれた」と喜びもひとしおだ。

地域との関係性も重視し、地元自治会の要請で建設科の生徒が神社の屋根補修を手がけた。デザイン科の生徒も近隣の商店街活性化を目的にPRレオを制作するなど、「授業の中で地域貢献活動を取り入れている」と後藤校長は胸を張る。（横浜・渡部敦）（金曜日に掲載）